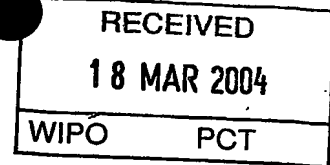


特 許 協 力 条 約

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)  
[PCT36条及びPCT規則70]

10/528759

出願人又は代理人 の書類記号 PO84PCT1027	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/ IPEA/416)を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/11678	国際出願日 (日.月.年) 12.09.2003	優先日 (日.月.年) 24.10.2002
国際特許分類(IPC) Int. C17 A61B5/055, G01R33/3815		
出願人(氏名又は名称) 株式会社日立メディコ		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。

- ☐ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。  
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)  
この附属書類は、全部で \_\_\_\_\_ ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- I ☒ 国際予備審査報告の基礎
- II ☐ 優先権
- III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- IV ☐ 発明の単一性の欠如
- V ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- VI ☐ ある種の引用文献
- VII ☐ 国際出願の不備
- VIII ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 12.09.2003	国際予備審査報告を作成した日 02.03.2004		
名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員)	2W	9808
	右高 孝幸 電話番号 03-3581-1101 内線 3290		

様式PCT/IPEA/409(表紙)(1998年7月)

## I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に  
 応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。  
 PCT規則70.16, 70.17)

☒ 出願時の国際出願書類

- |                                     |                |                      |
|-------------------------------------|----------------|----------------------|
| <input type="checkbox"/> 明細書        | 第 _____ ページ、   | 出願時に提出されたもの          |
| <input type="checkbox"/> 明細書        | 第 _____ ページ、   | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書        | 第 _____ ページ、   | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲      | 第 _____ 項、     | 出願時に提出されたもの          |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲      | 第 _____ 項、     | PCT19条の規定に基づき補正されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲      | 第 _____ 項、     | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲      | 第 _____ 項、     | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 図面         | 第 _____ ページ/図、 | 出願時に提出されたもの          |
| <input type="checkbox"/> 図面         | 第 _____ ページ/図、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 図面         | 第 _____ ページ/図、 | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 | 第 _____ ページ、   | 出願時に提出されたもの          |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 | 第 _____ ページ、   | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 | 第 _____ ページ、   | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である \_\_\_\_\_ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語  
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語  
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表  
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査（または調査）機関に提出された書面による配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査（または調査）機関に提出された磁気ディスクによる配列表  
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった  
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 図面の第 \_\_\_\_\_ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならない、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT第35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)

請求の範囲 1-35 有  
請求の範囲 無

進歩性 (IS)

請求の範囲 3, 9, 14, 18-20, 35 有  
請求の範囲 1, 2, 4-8, 10-13, 15-17, 21-34 無

産業上の利用可能性 (IA)

請求の範囲 1-35 有  
請求の範囲 無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1: JP 8-504107 A  
文献2: JP 1-117004 A  
文献3: JP 9-224919 A  
文献4: JP 1-126956 A  
文献5: JP 63-88810 A  
文献6: JP 2002-209869 A  
文献7: JP 2002-143126 A

請求の範囲8について

文献1には、超電導コイル回路を容器の外部に対し電磁氣的に遮蔽する手段が設けられた磁気共鳴イメージング装置が記載されている（第8頁第25行目～第9頁第9行目参照）。

そして、磁気共鳴イメージング装置の超電導コイル回路に、永久電流スイッチを備えることは、文献2（第3頁右上欄第13行目～同頁左下欄第1行目、第1図）に記載されているように周知技術である。

よって、請求の範囲8に記載された発明は文献1、2に記載された発明に基づいて当業者が容易に発明をすることができたものである。

請求の範囲1, 2, 4-7, 10-13, 15-17, 21-34について

文献3には、超電導コイル回路に設けられた液体ヘリウム量を測定するセンサー素子（液体ヘリウムレベルセンサ2）と、制御・モニター回路（環境監視装置10）との間にRFノイズを除去するローパスフィルタ（9）を設けた磁気共鳴イメージング装置が記載されている（第3欄第47行目～第4欄第7行目、図1, 2参照）。このローパスフィルタは制御・モニター回路と超電導コイル回路にまたがって閉ループが形成されるのを遮断している。

そして、磁気共鳴イメージング装置の超電導コイル回路に、永久電流スイッチを備えることは、文献2（第3頁右上欄第13行目～同頁左下欄第1行目、第1図）に記載されているように周知技術である。

また、磁気共鳴イメージング装置の超電導磁石や電気回路に接地点を設けることは、文献4（第2頁左上欄第8-11行目）、文献5（第3図）に記載されているように周知技術である。

また、磁気共鳴イメージング装置の超電導磁石を、測定空間を間に挟んで上下に対向配置され連結管で相互に接続された一対のクライオスタットによって構成することは文献6に記載されている（第5欄第20行目～第6欄第39行目、図3参照）。

補充欄 (いずれかの欄の大きさが足りない場合に使用すること)

## 第 V 欄の続き

また、磁気共鳴イメージング装置のヒータ素子と制御回路の間にスイッチ回路を接続することは文献7 (第16欄第23行目-第17欄第38行目、図12) に記載されているように周知技術である。

よって、文献3及び上記周知技術に基づいて請求の範囲1, 2, 4-7, 10-13, 15-17, 21-34に記載された発明を構成することは、当業者にとって自明なことである。

請求の範囲3, 9, 14, 18-20, 35について

クライオスタット内のヒータ素子、モニター素子を外部回路に接続するための端子部をクライオスタットの外壁に設け、この端子部に外部回路、クライオスタットの外壁、この外壁に設けられた接地点とを含む閉ループ回路に形成することは、国際調査報告書で引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なことでもない。